

生活科「野菜をそだてよう」研修会



〔畝作り〕



〔ヨモギだんご作り〕

4月17日(木)、今年も糸魚川東小学校の畑と家庭科室をお借りして実施しました。実習として、畑では、畝作り、マルチのかけ方、苗植え等を実際に体験していただきました。家庭科室では、低学年児童でも簡単にできる「ヨモギだんご」作りを行いました。市川協力員の用意したレシピは、水の代わりに豆腐を使うことで、水加減の失敗から子どもたちを救ってくれます。昨年も載せましたが、そのレシピを紹介いたします。尚、ヨモギは成長するとアクが強くなってきます。春先に摘んで冷凍しておくと、いつでも取り出して使えて便利です。

＜ヨモギ団子づくり＞

- ①白玉粉をはかります。(砂糖は好みで)
個人の場合は量を少なくすればいいのですが水加減がかなり難しくなります。
- ②ヨモギを、水を少し入れたミキサーにかけます。
*すり鉢でもすりつぶすことができます。水を少なくした方が風味は出ます。
- ③ヨモギをミキサーにかけたもの、豆腐(水)の順に白玉粉に混ぜます。豆腐(水)は、少しずつ入れます。
- ④こねます。ひたすらこねますと、紙粘土くらいの固さになります。
- ⑤生地をビー玉くらいの大きさに丸めます。
(注:手がぬれていると、ベチャベチャになります。)
- ⑥茹でます。・・・子どもにさせるときは、火を止めてから入れさせましょう。

【ポイント】

「水分が足りない」と思うくらいにしておきます。生地が柔らかすぎると、できません。少し固いくらいの方が後の作業がしやすいです。子どもは、水より豆腐のほうが混ぜやすいし、量の加減もしやすいです。(水だと、一気に入ってしまうがちです。)



〔⑤:丸めた生地〕

小3「チョウ・こん虫を育てよう」研修会



【昆虫模型作り】



【モンシロチョウの卵の観察】

4月24日（木）と25日（金）に、「チョウ・こん虫を育てよう」研修会を実施しました。こん虫の体のつくりについて理解を深めたり，確認したりする学習活動として，「3色粘土で昆虫模型」を紹介しました。

【模型のつくり方】

◎材料 ・超軽量紙粘土（詳しくは理センにお尋ねください。） ・絵具 ・モール

◎手順

①頭・胸・腹のパーツをつくる ②モールで①をつなぐ ③足をモールでつける

【活用例】

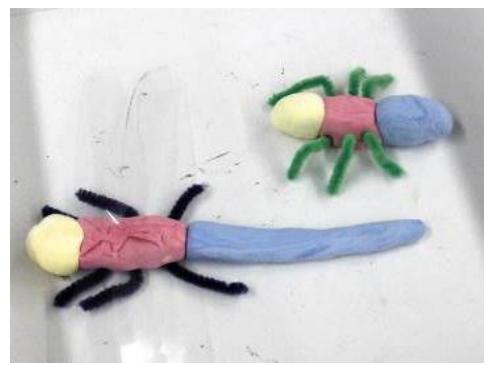
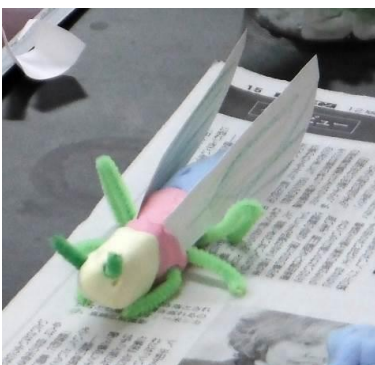
① 作成する昆虫を決めさせる。（実物があるものがよい）

② 実物やデジタルコンテンツなどで，頭・胸・腹のつくりを確認する。

*クワガタ・カブトムシ・カマキリなどは，背中側からではなく，必ず裏側から観察させるようにしましょう。

③ 模型を作製する

④ 友達同士で模型を紹介しあい，体のつくりや足のついている場所などが正しいかを確認する。



上の写真は，参加者が作成した「3色粘土で昆虫模型」です。児童の作品として学習参観日の教室掲示にもぴったりです。モンシロチョウの卵は見つかったでしょうか。そろそろ，キャベツやダイコンの葉にたくさん産みつけるころです。